

第4回 食べる人と作る人の連続学習会 「有機農業の実践と流通」

第4回目の食べる人と作る人の連続学習会は、二本松有機農業研究会代表理事の**大内督さん**と、(一社)日本販売農業団体連合会(日販連)専務の**中塚敏春さん**に有機農業の生産と流通について講演をしていただきました。

有機農業普及と流通に奔走

中塚敏春専務からは、有機農業に取り組む生産者の拡大と流通について、日販連の取り組みを紹介していただきました。日販連は1970年代から産地と生協などを結び付け、いち早く「産直」に取り組んできました。有機のグループ認証に取り組み、参加する農家の有機栽培面積は国内2位に達しています。全国各地に有機栽培農家を増やすため、日本中を奔走されています。有機農産物、有機加工食品、有機畜産、有機飼料への取り組みは国内でも数少ない実践です。

有機農家支援と流通・加工

講演では様々な有機農家の紹介もされました。埼玉県の若手農業生産法人は有機大豆30トンを生産し、余すことなく、有機の豆腐、味噌、醤油などに加工されています。青森県の農業生産法人は、耕作放棄地となっていた中山間農地を借りて有機栽培を実践し、東京都内で独自に販売しています。その他にも、ぶどう(山形県)、いちご(青森県)、みかん(熊本県)、マンゴー(沖縄県)なども紹介されました。農業生産だけでなく、有機小分け認証や製粉業者の有機製粉、有機小麦パン製造など、流通と加工の現場でも先駆的な役割を果たしています。

有機生産種子普及

種子法廃止や種苗法改悪により、種子生産や確保が注目されていますが、野菜などの種子の大半は、海外生産になっています。食料自給率に種子や飼料も加味すると多くの農産物の食料自給率は一桁と日本農業は壊滅的な状況にあります。生産のもっとも基本となる種子を有機生産し、採取、普及していくことも日販連は担おうとしています。最後に中塚さんは、「有機米を大いに作り、地元の学校給食で子供たちに食べてもらいましょう。ここに大きな希望があります。」と呼びかけました。



▲大内督さん



▲中塚敏春さん

参加者の感想

Iさん

有機農産物の販売はうまくできるのか疑問があったが、日販連のようなしっかりした団体の働きが重要だと理解しました。大内さん

の稲作のポイントを聞くことができ、有機農業の考えを少しずつ理解できました。

Yさん

有機農業について、ほとんど知識がなく、どれほど苦労があるかわかりませんが、自

分自身が食するものをもう少し分かっていきたいと再認識させていただきました。

Nさん

大内さんの実践農業興味深く聞けました。代掻き3回、除草は田車と竹箒と独自の工夫が聞けました。私の父の代は、収量にエネルギーを費やしてましたが、これからは食の安

全が優先される時代なのではと思います。時代の流れを敏感に感じ取り、方向転換をすべき時代なのかもしれないと勉強になりました。

とにかく雑草を生やさない

大内督さんからは米の有機栽培について発言をいただきました。

育苗は箱あたり60gの筋蒔きで40日間育苗します。今年はもう少し薄撒きにする予定です。秋と春の耕起はとにかく浅く耕します。元肥は屑大豆を40〜70kg撒きます。大豆も2.5ha栽培している、そこから出た屑大豆を使っています。

「とにかく草を生やさない」ことを基本としています。そのため、代掻きを3回します。1回目は4月30日頃に荒代を掻きます。その後雑草の芽を発芽させ、5月15日頃に2回目に代掻きし、発芽した芽を浮かせます。3回目は田植え直前の5月25日頃行います。イトミミズが田んぼの表面を耕し、トラクト履を作り、雑草が発芽しにくい状況を作ってくれています。田植えは水を張ったままで28cmの株間で疎植です。深水を8cm以上で管理します。水持ちが悪い箇所では雑草が発芽するところは田車と竹箒で除草しています。様々な農法を見聞きして、自分が出来る技術を組み合わせています。

クモや野鴨が助けてくれている

害虫防除はクモや野鴨が助けてくれます。クモは稲のいたるところで害虫を捕食します。野鴨もイネミズゾウムシなどの虫を食べてくれます。ザリガニも増えて稲作りを助けてくれます。7月上旬にはトンボがいたるところで羽化しています。水切りをすると羽化できないので、8月末まで水は落としません。昨年は収量も多くとれ、経営も成り立っています。

とんぼやクモ、多様な生き物を守りたい

昨年は農水省が「みどりの食料システム戦略」を打ち出し、有機農業が脚光を受けるようになりました。内容を見ると、RNA農薬やネオニコ系農薬の2040年までの使用を容認するなど、心配することもあります。それでもこの政策の方向を注視していきます。

有機農業を続けながら、とんぼやかえる、生物の多様性を残したい。微生物を活かし、土作りに励んでいきたい。そして地域に仲間が増えることを願っています。

農民連フラッシュ flash

第28回福島県農民連女性部協議会総会開催

2022年1月19日第28回総会が磐梯熱海温泉「水林亭」にて開催されました。直前まで開催も危ぶまれたが女性24名男性1名の参加。活発な発言もあり有意義な時間を過ごしました。外で一瞬だけマスクをとり記念撮影。短時間でも同じ場所で同じ時間を過ごし、お互いの元気な顔がみられ、今年度こそ例年以上活動の幅を広げたい。活力がわいてきた総会となりました。



郡山地方農民連第30回総会&「小松泰信先生」記念講演会開催

1月30日(日)郡山中央公民館にて、郡山地方農民連第30回通常総会が開催され、40名が参加しました。総会の前には、岡山大学名誉教授の小松泰信先生から、農山村が生活と生産の一体性を保有し、生命保全産業としての役割を国が責任をもつべきだということ、野党共闘や原発再稼働させない運動など農民連の運動の重要性を強く訴えられました。



太陽光発電用地をお貸しいただける方を募集しています。

- ① 福島市
- ② 約2000〜3000㎡の遊休地
- ③ 日当たりがよい
- ④ 宅地、雑種地、林地、原野、農地などの地目の土地
- ⑤ 賃貸条件:50円/坪(年)



【連絡先】

福島農民連産直農業協同組合 担当:佐々木健洋
TEL 024-546-7229 fax 024-546-8804
メールアドレス:stake@vmil.plala.or.jp

ご連絡いただければ、現地を確認させていただきます。